

青森の農林水産物が全国へ。

青森県の「水・土・人」が育んだ農林水産物は、新輸送システム「A! Premium」を活用し、速く遠くへ便利に！ 青森県は、



五戸町
青森県産業技術センター
りんご研究所 県南果樹部
研究管理員
土嶺 康憲 さん

県内のさくらんぼ園は、園地の老木化が進んでいることなどから、近年、栽培面積が減少しています。そうした中、平成27年秋に、産業技術センターりんご研究所が独自に開発した新品種「ジュノハート」の栽培がスタート。甘み

待望のオリジナル品種ハート型のさくらんぼ

新品種 ジュノハート

が強い上、貯蔵性もよく、大玉で果実がハート型をしていることからプレミアムなイメージで贈答用にも最適です。また、観光果樹園などでの利用も期待されています。現在、試験栽培を行っています。甘み



神戸
炭旬鮮市場 からすにて
(株)ワールド・ワン代表取締役
河野 圭一 さん

神戸では、青森の食材を食べる機会がめつたにないため、初めて青森ほたてを食べた時、そのおいしさに感動してしまいました。「エープレミアム」の流通システムを利用すれば、青森のとれたて食材が翌日午前中に神戸に届くというので、本当に素晴らしいです！

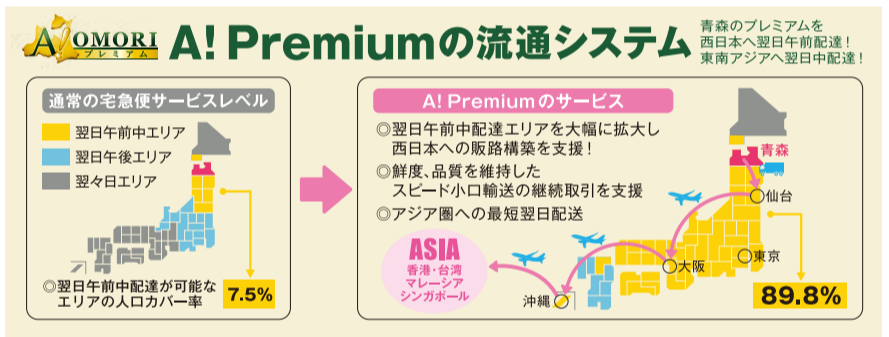
とれたてのおいしさが関西でも大好評！

ほたて

か？「見本はありますか？」など、たくさんお問い合わせをいただいております。期待の高さがうかがえます。市場デビューは平成32年以降を予定しており、平成37年度までには約28ヘクタールまで栽培面積を拡大させる予定です。これまでにない青森産のプレミアムなさくらんぼ、ぜひご期待ください！



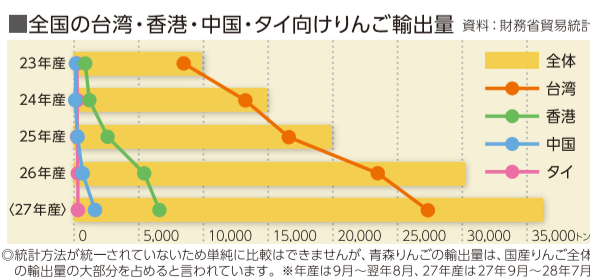
りんご果樹課 ☎017-734-9492



港湾空港課 ☎017-734-9676

本県農林水産物輸出のフラッグシップとも言える青森りんごは、平成26年3月に策定した「青森県輸出拡大戦略」で掲げている目標輸出量3万トンを目指し、さまざまな取組を進めてきました。特に、輸出量の約8割を占める輸出先である台湾においては、県りんご対策協議会が中心となり、現地テレビCMをはじめ、試食宣伝販売活動等を継続的に展開し、毎年12月には、知事のトップセールスと合わせたりんごキャンペーンを実施してきました。また、タイやマレーシアなどの東南アジアについても、県農林水産物輸出促進協議会が中心となり、青森りんごフェア等を地道に展開してきました。これらの取組を通じて、平成26年

青森りんご 輸出拡大中！



国際経済課 ☎017-734-9730



官民の連携でコンブ 漁獲量が過去最高に

東通村 尻屋漁業協同組合 代表理事組合長
南谷 雅人 さん

昭和38年に発足した「尻屋漁業研究会」は、現在の尻屋漁業協同組合の若手組合員28人で構成されています。30年以上にわたって、県むつ水産事務所、産業技術センター水産総合研究所とともに、コンブやウニ、アワビなど資源の共同調査を続けています。こうした取組は、世界でも珍しいそうです。蓄積したデータから、コンブの生育は1月下旬の海水温に左右されることが分かり、不漁が予測される場合は、事前にコンブの種糸を海中に設置するなど対策が可能になりました。また、ウニはコンブを餌にしますが、身入りの悪いウニを稚海藻場に移植放流してコンブ・ウニ両者の生育を促す一石二鳥の取組にも挑戦。それによって、昨年はコンブの漁獲量(乾燥)が324トンと過去最高を記録しました。尻屋のコンブは、肉厚で黒々としており、良いだしが出る」と評判。ウニやアワビも首都圏で珍重されています。今後、も県などと連携しながら、若い世代が続けられる漁業を目指したいと思っています。



水産振興課 ☎017-734-9592